

令和 5 年度 同愛高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室 事業計画

第 8 期最終目標

個人と地域がつながるまち ～ひとりひとりが「ちから」支え合うまち～

町会、老人クラブの活動が活発である一方で、マンションなどの増加に伴い、住民間の交流が少なくなってきており、家内工業同士の関わりや子供を通じた関わりも減少傾向にある。

そんな時代だからこそ、昔から住む人、新たに住み始めた人、それぞれの住民の交流を増やし、昔ながらの「気持ちよく声をかけあえる関係」「ちょっとした変化に気が付く関係」ができるまちの雰囲気を取り戻したい！

困りごとがあったときや介護・医療サービスを利用するときに、どうするべきか理解している人がたくさんいる、自分の特技を地域で活かしている人がたくさんいる、そんな「強いまち」が理想である。新旧を超え、世代を超えてつながることで、自信を持って「住んだ方がいいよと自慢できるまち」になることを目指す。

人口 (人)	高齢者人口 (人)	高齢化率 (%)	後期高齢者人口 (人)	高齢者人口に対する 後期高齢者人口 (%)
44,118	7,977	18.1%	4,272	53.6%

令和 5 年 2 月現在

5 年度の到達点

～地域と共に 3 年間で振り返り、9 期に向けて前を向くことができる～

- ・ 8 期の活動の成果・課題を地域と共に振り返り、9 期の計画に活かすことができる「輪」が広がっている
- ・ 家の中から外へ、外から友人へ、友人から仲間たちへと、コロナ禍の影響からの脱却を目指す

<全センター・相談室共通業務>

1 総合相談支援

5 年度の 取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人やその家族から、複数の課題を含む相談を受ける機会が多くなってきている。重層的な課題に対応するため、関係機関との連携体制を強化していく。 ・ 地域住民や関係機関等からの相談に対し、高齢者支援総合センター（以下「センター」という）と高齢者みまもり相談室（以下「相談室」という）が一体的に対応できるよう、専門職としての自己研鑽を継続させる。 	
結果	新規相談件数 ○件（前年度 ○件）	継続相談件数 ○件（前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

2 権利擁護

5年度の 取組の視点	関係機関との連携を充実させながら、高齢者の多様な生活に則した意思決定支援を行うことで高齢者の権利侵害の予防、防止に努める。 ・介護事業所向けの虐待防止、意思決定支援等の研修（年1回） ・成年後見と周辺制度、相続や遺言等の地域向け講座（年2回）	
結果	虐待防止ネットワーク（研修、講座等） ○件 （前年度 ○件）	権利擁護相談（虐待相談含む）件数 ○件 （前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援

5年度の 取組の視点	専門職間の連携がより円滑となる仕組みを充実させ、高齢者が自宅での療養の実現が難しいと感じることがなく、住み慣れた地域での生活が続けられるような支援ができる体制を強化させる。 ・同愛地区 CM 管理者連絡会（年6回） ・同愛地区ネットワーク会議（年6回）	
結果	ケアマネジャー向け研修 ○回（前年度 ○回）	事例検討会 ○件（前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

4 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント

5年度の 取組の視点	昨年度に重点を置いた「今できることを止めない支援」を基本にし、社会情勢に合わせ「もっと活動的になれる支援」を加えながら、地域住民に介護予防の普及啓発を行いつつ、毎日のその人らしい生活が自分で続けられる視点を磨くマネジメントができるよう地域の専門職とともに研鑽する。 ・広報誌等の配布 ・体力測定会の開催支援 ・ウォーキングマップの作成、普及活動	
結果	プラン件数（自己作成） ○件（前年度 ○件）	プラン件数（委託） ○件（前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

5 認知症支援

5年度の 取組の視点	認知症を他人事ではなく身近なこととして考えてもらうよう、様々な世代、職種、自主グループ等をターゲットとし、地域住民と共に当事者やその家族を見守ることができる地域作りを目指していく。 ・認知症普及啓発事業（年8回） ・ローズティーの会（年6回） ・オレンジカフェ（年12回、うちオンライン4回）	
結果	認知症サポーター数 ○人（前年度 ○人）	家族介護者教室 ○回（前年度 ○回）
次年度以降の 取組の方向性		

6 地域ケア会議

5年度の 取組の視点	個別会議で抽出した地域課題に対し、より地域の実情に沿った第9期地域包括ケア計画の作成につなげられるよう関係者、関係機関等と情報共有し、検討をしていく。 ・地域ケア個別会議（年6回） ・地域ケア推進会議（年5回）	
結果	地域ケア個別会議 ○回（前年度 ○回）	地域ケア推進会議 ○回（前年度 ○回）
次年度以降の 取組の方向性		

7 生活支援体制整備事業

5年度の 取組の視点	コロナ禍で停滞していた交流・集いの場の再開に向けた後方支援と共に、地域住民が持っている「得意なこと」を活かせる場の創出に取り組み、場と担い手の確保を行う。	
結果	交流・通いの場 ○件（前年度 ○件）	
次年度以降の 取組の方向性		

8 見守りネットワーク事業

5年度の 取組の視点	令和4年度ふれあい訪問アンケートで認知度が62%という結果が出たことを受け、相談室の認知度が70%以上となることを目指す。また、孤立傾向にある方を早期発見、早期支援につなげることができるよう見守りネットワーク体制を強化していく ・65歳以上独居・高齢者のみ世帯を中心に600件の実態把握を行う ・高齢者が集う場に出向き、みまもりだよりの配布（6箇所60回）	
結果	実態把握 ○件（前年度 ○件）	安否確認 ○件（前年度 ○件）

次年度以降の 取組の方向性	
------------------	--

<圏域別地域包括ケア計画の取組>

※事業ごとに記載している施策の方向性の数字は、以下を示している。

- | | |
|------------------------------|-------------|
| 1… 見守り、配食、買い物など、多様な日常生活の充実 | 2… 介護予防の推進 |
| 3… 介護サービスの充実 | 4… 医療との連携強化 |
| 5… 高齢者になっても住み続けることのできる住まいの確保 | |

事業名 趣味や特技を活かした生きがいづくり、地域のつながりづくり		施策の方向性： 1
背景となる課題	<p>○活かせる趣味や特技、経験をもつ住民がたくさん地域にいるものの、その趣味や特技を活躍させる場に結びついていない現状がある。</p> <p>○地域との付き合いやつながりの重要性を感じている人がいる一方で、必要性を感じず付き合いが希薄になっている人もいる。</p>	
事業内容	<p>○墨田区社会福祉協議会とも情報を共有しながら趣味や特技、経験を活かして活動したい地域住民に働きかけを実施し、活動をPRするイベント等の企画・運営をサポートしていく。</p> <p>○開催方法を工夫しながら交流会の提案やサポートを行うことで定期的集まるきっかけをつくり、ネットワークの構築や自主的な活動の促進を図る。</p>	
4年度事業実績 (アウトプット及び 現時点で判明し ているアウトカム) R5.1.31 日段階	<p>○折り紙プロジェクト実行委員会が立ち上がり、プロジェクトの概要、目標の共有をし、地域活動の種が芽を出した。</p> <p>○プロジェクトの周知活動の一つとして、ロゴのデザインを安田学園に依頼、学園で選抜された18作品を展示し、地域の9か所で投票を行った。結果として、614票（無効票0）投票があり、1作品をロゴとして決定させ、地域の力を活用した表彰を行った。</p> <p>地域との交流を求めている学校と繋がることで、プロジェクト以外の活動（認知症サポーター養成講座、多世代交流、防災等々）を協働することが可能となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折プロ実行委員会（4月～1月）9回 ・投票者：614名 ・表彰に関わった地域住民：表彰状作成－1名、飾りつけ折り紙－児童館利用者 	
5年度の 取り組みの 指標と方向性	投入資源 (人・場所 等必要な資 源)	<p>「折り紙プロジェクト」</p> <p>コアメンバー：民生委員・児童委員、児童館館長、主任児童委員、社会福祉協議会、センター・相談室</p> <p>協力団体：安田学園、本所地域プラザ等</p> <p>会議場所：本所地域プラザ他</p>
	5年度活 動計画 (アウトプ ットの目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの概要やロゴを地域に広め、折り紙ポストを設置する ・折り紙ポスト等で集まった地域住民が折った折り紙を作品にし、地域の関係機関に飾ってもらう
	成果（アウ	・コア会議開催数並びに、コアメンバー数

	トカム) を測る指標及び目標	<ul style="list-style-type: none"> ・折り紙ポスト設置数並びに投函作品数 ・作品贈呈数、掲示機関数
実施結果	活動の実績 (アウトプット)	
	成果 (アウトカム目標の達成状況)	

事業名 地域で支える介護予防の推進		施策の方向性：2, 4
背景となる課題	<ul style="list-style-type: none"> ○介護予防の取組に対する情報が十分に浸透していない地域がある。 ○災害・社会情勢の変化に合わせた介護予防の取組に対し、地域を巻き込んだ周知活動が十分であるとはいえない。 	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○懇談会やアンケート調査で住民から最新の地域ニーズを把握し、そのニーズに合った情報を広報誌への掲載、介護予防普及啓発のチラシの作成・配布に活かす。 ○町会、老人クラブ等と協働し上半期に「体力測定会」を実施し、日常の生活でできる体操プログラムを提案する。下半期に再度「体力測定会」を実施し、その効果を検証する。 ○最新の「知らなきゃ損！ 損！ 出前講座メニュー表」を活用してもらえよう、地域に働きかけを行っていく。 	
4年度事業実績 (アウトプット及び現時点で判明しているアウトカム) R5.1.31 日段階	<ul style="list-style-type: none"> ○講座アンケートや総合相談等の活動から、地域課題を抽出した結果、ウォーキングマップ作成委員会が立ち上がった。 ○町会が主体的に体力測定会を実施できるよう、チラシの作成、開催準備段階から支援を行った。地域リハビリテーション活動支援事業と協働し、その地域に住む介護予防サポーターや町会関係者にノウハウを伝えながら開催した (開催5町会・参加者計118名)。事後アンケートで「町会で定期的開催したい」「町会で開催できそう」という回答をいただいた。 ○町会、老人クラブや自主グループの代表者に、活動を再開するきっかけとして出前講座メニュー表を活用してもらえよう周知活動を行い、6講座の依頼をいただいた。 	
5年度の取り組みの指標と方針	投入資源 (人・場所等必要な資源)	<p>「ウォーキングマップ ～健康と元気と貯筋～ (仮)」</p> <p>主担当：センター職員、相談室職員</p> <p>協力者：すみだ地域リハビリテーション活動支援事業従事者、町会、介護予防サポーター、同愛いきいきサポーター、町会、老人クラブ、民生委員等</p> <p>実施場所：各町内</p>
	5年度活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングマップを完成させる ・地域に配布する

	(アウトプットの目標)	・ウォーキングマップを活用した実践講座を展開する
	成果（アウトカム）を測る指標及び目標	・ウォーキングマップ配布数 ・実践講座開催数、参加者数 ・事後アンケート
実施結果	活動の実績（アウトプット）	
	成果（アウトカム目標）の達成状況	

事業名 サービス向上委員会		施策の方向性：3
背景となる課題	<p>○墨田区の介護事業者のインターネット掲示板である「ケア倶楽部」の活用をしていない事業所があり、社会情勢等の情報や地域課題の共有が十分にできていない。</p> <p>○事業所向けアンケート集計結果から、アセスメントからニーズを導くことを苦手としている専門職がいることがわかった。</p> <p>○介護上の困りごとが生じるまで、区の施策や介護保険制度等の利用方法を知らない住民もいる。</p>	
事業内容	<p>○介護保険制度改正等、事業所が知りたいことをテーマに、業種ごとに集まる機会を確保し、地域内の全事業所に参加を促していく。そこで情報交換や課題の共有を図り、事業所の垣根を超えた交流ができるように働きかけていく。</p> <p>○地域の商店や企業などから協力を得ながら、同愛地区ネットワーク会議（地域ケア推進会議）の専門性が活かせるイベントや交流会を2回開催する。</p>	
4年度事業実績（アウトプット及び現時点で判明しているアウトカム） R5.1.31 日段階	<p>○同愛地区ネットワーク会議で、情報の共有や、地域課題の解決に向けた話し合いを5回行った。その課題解決の一つとして、同愛いきいきサポーター、地域住民の協力を得て「わがまち発見ウォークラリー」を3回開催し、参加者（計63名）に地域を再発見していただき、新たな繋がりをもっていただく機会になった。また、地域の専門職が地域に目を向け、その専門性を発揮していただくことで、自らの専門性の再確認と、地域との共存を考えていただく機会になった。</p> <p>○同愛地区 CM 管理者連絡会で今年度はBCPをテーマにし、情報共有、情報交換、研修・事例検討会を開催等の話し合いをし、介護支援専門員の専門性の向上を目指した（4回開</p>	

		催)
5年度 の 取 組 み の 指 標 と 方 向 性	投入資源 (人・場所 等必要な資 源)	「ふれあい地域交流会 わがまち発見！防災ウォーク🚶 (仮)」 主担当：センター・相談室、地域内介護保険事業所等 協力者：医療機関、町会、老人クラブ、民生委員・児童委員、消防、警察、横網公園事務所等 会議開催場所：本所地域プラザまたはオンライン開催
	5年度活 動計 画 (アウトプ ットの目標)	・震災後100年を迎える節目に、地域で防災を意識したウォークラリーを開催し、有事の際の避難場所や準備について知ることを契機に、体力づくりや交流の機会とする。 ・町会、老人クラブ、民生委員・児童委員、消防、警察等の協力者と、地域の介護保険事業所が繋がることを目指す。
	成果(ア ウトカム)を 測る指 標 及び目 標	・ネットワーク会議開催数 ・会議参加者数 ・ウォークラリー協力者数、参加者数、 ・事後アンケート結果 ・ネットワーク会議での振り返り
実 施 結 果	活動の実績 (アウトプ ット)	
	成果(ア ウトカム目 標の達成状 況)	

事業名 知っ得！！多職種連携		施策の方向性：2, 4
背景となる課題	<p>○総合病院と開業医の役割の違いも含めて地域に普及啓発を行う必要がある。</p> <p>○様々な情報が届いておらず、地域から孤立したり適切な医療につながない高齢者もいる。</p> <p>○若い世代は「親が認知症になったら」という当事者意識を持つことが難しい場合もある。</p> <p>○多職種連携情報シートの活用を含め、医療分野と介護分野が生活上の問題点を共有できていないため共通言語を用いるまでに至っていない。</p>	
事業内容	<p>○地域の関係機関（医療・介護・地域住民等）と連携しながら「知らなきゃ損！損！出前講座メニュー表」を住民ニーズに合わせた内容に見直し、再作成する。再作成した出前講座冊子の配布先を検討し、開催方法を工夫しながら出前講座の開催（年1回）、地域ケア推進会議（講座内容を盛り込んだもの、年1回）を多職種で開催する。</p> <p>○医療との連携を強化することで、医療と介護が切れ目なく継続し、地域住民が健康に対する意</p>	

		識の向上ができるよう働きかける。
4年度事業実績 (アウトプット及び 現時点で判明し ているアウトカム) R5.1.31日段階		○活動再開に不安を感じている老人クラブ等の関係者と密に情報を交換し、講座を通じてコロナと共存できるよう働きかけをした結果、5団体から6回の出前講座依頼があり85名に対し実施した。
5年度の 取り組みの 指標と方向性	投入資源 (人・場所 等必要な資源)	「2023 知らなきゃ損！損！出前講座メニュー表」 主担当：センター職員、相談室職員 協力者：医師、歯科医師、薬剤師、介護保険事業所、施術機関等
	5年度活動計画 (アウトプットの目標)	・「2023 知らなきゃ損！損！出前講座メニュー表」の完成 ・地域ニーズから提供メニューを考え、地域に出向いて講座をすることで、医療と介護が連携し、その持っている専門性を発揮することができ自らの役割の再確認ができる。 ・介護と医療が連携し、その姿を地域住民が目で見ること、安心して地域で暮らせるという心構えが準備できる。
	成果(アウトカム)を測る指標及び目標	・メニュー表配布数 ・講座依頼数 ・講座協力機関 ・講座後アンケート
実施結果	活動の実績 (アウトプット)	
	成果(アウトカム目標)の達成状況)	

事業名 住まいでスマイル☺		施策の方向性：5
背景となる課題	○住宅改修の件数が比較的多い圏域で、段差がある家もよくみられる。身体の機能の低下や、転倒に不安を抱えている高齢者が少なくない。 ○相談対応等の中では施設入所の検討、申込みをする人が増えている。	
事業内容	○出前講座や勉強会(年1回開催)で、家庭内での事故や自宅内で留意が必要な場所への周知を行い、快適で安全な住まい環境の整備を図る。 ○地域の介護施設などと協力して、圏域内の施設や高齢者向け住宅などをまとめたリーフレットを作成、更新し、住まいに関する講座や勉強会(年1回開催)を通じて説明、配布することで自分に合った住まいの選択が円滑に行えるよう支援する。	

4年度事業実績 (アウトプット及び 現時点で判明し ているアウトカム) R5.1.31 日段階		<p>①地域リハビリ活動支援事業、福祉用具事業所と協働し「これで安心 知って!! 転ぶ原因」講座を開催し 15 名が参加した。</p> <p>②「知って!! 高齢者施設のいろいろ 自分にあった施設の選び方」講座を開催し 14 名が参加した。</p>
5 年度 の 取 り 組 み の 指 標 と 方 向 性	投入資源 (人・場所 等必要な資 源)	<p>①「住まい環境整備」 主担当：センター職員、相談室職員 協力者：消防署、リハビリ専門職、福祉用具事業者等 開催場所：本所地域プラザ</p> <p>②「住まい方」 主担当：センター職員、相談室職員 協力者：高齢者向け住宅・介護施設事業所、またその紹介を行う事業所等 開催場所：本所地域プラザ</p>
	5年度活 動計画 (アウトプ ットの目標)	<p>①リハビリ専門職や福祉用具事業者、消防等と連携しながら出前講座や勉強会を開催する。 家庭内での事故や自宅内で留意が必要な場所を地域で暮らす高齢者へ周知することで安全な 住まい環境を自ら考えていただくきっかけを作る。</p> <p>②リーフレットの更新と住まいに関する講座や勉強会を開催する。 生活拠点変更を考えるきっかけや変更までの流れ、留意点等を周知することで地域の高齢者が 自身にあった住まいの選択を円滑に行いやすくなる。</p>
	成果(アウ トカム)を 測る指標 及び目標	<p>①講座の回数や参加人数、講座後のアンケート</p> <p>②講座の回数や参加人数、講座後のアンケート</p>
実 施 結 果	活動の実績 (アウトプ ット)	
	成果(アウ トカム目標 の達成状 況)	